

わたしが産まれる (短縮版)

作 絹川 千明

〔登場人物〕

舟喜さら 高校二年生

映見 さらの母

杏奈 さらの姉。四つ違い。

水島めい 高校二年生

由梨(Julia)

ヨン(Jon) 由梨の息子。さらと同じ年。

徳ちゃん 映見の従兄

トロール (あの男／男子生徒／男V／客)

※注意※

本作品には性暴力の描写が含まれています。ご注意ください。

1 自室

音楽。幕があく。

舞台には白い机が一つと、白い椅子と赤い椅子がそれぞれ複数点在している。その一つに、制服姿（スラックスを着用）のさらが座っており、日記を書いている。別の椅子の背もたれには、クリップでハンガーに留められたスカートが掛けてある。

さら 命が芽吹く春。私は高校二年生になった。新学期が始まって二週間。みんなはクラスに馴染んできている。私の後ろに座っているはずの、めい以外は。母親を亡くすつらさを、私は想像できない。今日は来るかな。来てくれたらいいな。

あの男がやってくる。遠くから、さらをじっと見ている。

さらはその気配に、怯えた様子で顔を向ける。目が合い、すぐに背けて縮こまる。そこへ映見の声。

映見 さらー。

映見、やってくる。あの男、ゆっくりと去っていく。

さらは日記を隠す。

映見 (ドアをあけ、) あ、起きてたの？

さら ノックしてよ。

映見 遅れるよ。

さら わかっている。

映見 (スカートを見て) あ、ねえ、

さら なに。

映見 スカート、穿かないならしまっておかないと。

さら わかっているって。

映見 せっかく買ったのに。

さら もう行くから、はい、出てって (映見を部屋の外へと押していく)。

映見 今晩夜勤だから。

さら はいはい。

映見 カレー入っているからね。

さら はいはい。

自身も部屋から出て、去っていくさら。見送る母。

映見 行ってらっしゃい。

映見の視線はスカートへと移り、手に取って、去る。

2 教室

さら、俯きがちに教室へ入る。自席に目をやると、その後方の席にめいの姿。遅れて男子生徒も入り、隅の席に座る。

さら めい？

さら、めいに駆け寄る。振り向くめい。

さら 心配したよー。

めい ごめん。

さら ごはんちゃんと食べてる？

めい ぼちぼち。

さら 干し芋は？

めい 干し芋は食べてる。

さら 主食干し芋かよー。

めい バリエーションすごいんだよ？ 干し芋。

さら どんな？

めい 焼いて海苔巻いてお醤油つける。
さら えー。
めい 干し芋と干し芋の間にチーズを挟んでレンジでチン。
さら それ何バーガーなの。
めい 干し、チーズバーガー？
さら 芋どこいったの。
めい 確かに。
さら ってかノート、コピーしたやつ貰った？
めい あれすごい助かった。
さら よかったー。
めい 全然読めなかったけど。
さら えっ。
めい うそうそ、なんとか読めた。
さら なんとかかよー。
めい (首を横に振り、) ……ほんと、ごめん。
さら 謝らないでよ。
めい 連絡くれてたのに、返信しなくて、
さら いいってば、気にしなくて。こうやってこれたんだし。ね？
めい (小さく頷き、) また同じクラス。
さら うん。奇遇だね。
めい (微笑み、) キグー。

さら、鞆の中の教科書を机の中に移す。

めい さらはぎ、
さら ん？
めい 両親の、持病とかって知ってる？
さら 持病？
めい アレルギーとか、糖尿病とか。
さら なんだったかな。お父さんがハウスダストがどうか、お母さんは胃が弱いとかなんとか。
めい うろ覚え？
さら なんか、あんまりピンとこなかったのかも。
めい うちのお母さん、乳がんだったの。遺伝性の。
さら ……。
めい 一回治ったと思ったんだけど。
さら 結構、前からだったんだ？
めい うん。
さら ……。

めい まだ四十五歳だった。

さら めい、

めい 今のうちから、知っておいたほうがいいよ。身近なことだから。

さら ……。

チャイム。

二人 きりーつ。きをつけー、れい。おはようございまーす。

さら、正面に向かって座る。照明、さらが集まる。めい、男子生徒、去る。

さら（日記を広げ、）ついにめいが学校に来た。春休みの途中で連絡が取れなくなって以来、久しぶりに話をした。ずいぶん痩せたねって言うと、「イエーイ」って、無理矢理笑ってくれていた。今にも泣きだしそうな顔。朝から、帰りまで、ずっと。……めいの力になるには。めいの考えていること、私も考えよう。

日記を閉じる。

3 舟喜家リビング・夕方

杏奈、帰宅。

杏奈 ただいまー。

さら どしたの。

杏奈 なに、第一声がそれ？

さら 何かあったの？

杏奈 なんかないと帰ったらダメなの？

さら あ、退学になったとか？

杏奈 なんでよ。

さら お盆も正月も帰ってこないのに。

杏奈 いいでしょ別に。

さら 私はいいけど。

杏奈 冷たい妹。

さら あ、カレー。まだあったかいと思う。

杏奈 お母さん夜勤？

さら うん。

杏奈 お父さんは？

さら お風呂。

杏奈、タバコを吸おうとする。

さら ねえやめてよ。

杏奈 アンタまで言うの？

さら ぶんえん。

杏奈 肩身せまつ。外けっこう寒いんだけど。

さら バレたらお父さんうるさいよ。

杏奈 ほんつと。女だからなんだっつーの。別にいいでしょ自分の体なんだから。もーっ。

杏奈、タバコをしまつてカレーの用意を始める。

さら ……あのさ、

杏奈 んー？

さら お母さんの両親について、会ったことある？

杏奈 (少し考え、) ない。

さら やっぱそうなんだ。

杏奈 あるの？

さら ない。

間。

杏奈 え？ なんの話？

さら いや、なんか気になって。

杏奈 急だな。

さら ほら、ここお父さんの実家じゃん？ 私たち、生まれてからずっと、父方のおじいちゃんと

おばあちゃんとは一緒にいたわけじゃん？ でも母方には会ったことないなって。

杏奈 今さら？

さら そうだけど、お姉ちゃん気になったことないの？

杏奈 ないけど、お父さんは亡くなったって聞いたよ。

さら えっ、お母さんのお父さん？

杏奈 うん。なんかすごい酒飲みで、確か食道がんって言ってたかな。

さら それいつ聞いたの？

杏奈 えー、結構前。

さら そんなの私知らない。

杏奈 ちっちゃかったんじゃない？

さら 四つしか変わらないじゃん。

杏奈 充分でしょ。

さら え、じゃあお母さんのお母さんは？

杏奈 わかんない、憶えてない。

さら テキトー。

杏奈 訊いてみりゃいいじゃん。

さら 何を？

杏奈 なんか訊きたいことあるんでしょ？

さら 踏み込んだじゃいけない感じしない？

杏奈 別に。

さら お姉ちゃんのほうが冷たいと思う。

杏奈 まあ早く家から出たかったしね。あんたも長いこといないほうがいいよ。

さら ー。

杏奈 あー、やっぱ無理。

杏奈、タバコを出して外へ去る。

さら 確かに、これまで気にしたことがなかった。疑問にさえ思わなかった。母の父親はいつ亡くなったのか、母親のほうはまだ生きているのか、だったらどうして会ったことがないんだろ……私は、母のことをほとんど知らない。産まれたときから、母を母としてしか、見たことがなかったのかもしれない。

4 舟喜家リビング・翌朝

映見、帰宅。

映見 あれ？ おはよう。

さら (頷く)

映見 休みなのに早いね。

さら おかえり。

映見 めずらしい。

さら なに。

映見 (笑み) ただいま。

映見、冷蔵庫の中を開け、

映見 どうだった？

さら カレー？

映見 うん。

さら シーフードも、たまには悪くはないかな、

映見 やった。

さら ……ねえ、

映見 ん？

さら 朝っていうか、夜勤あけに話すことじゃないかもだけど、

映見 どうしたの？

さら お母さんの父親って、がんで亡くなったの？

映見 うん。

さら それ言ったことあった？ 私に。

映見 一緒にお墓参りに行ったの憶えてない？

さら お墓参り？

映見 お母さんの父親、つまりさらのおじいちゃんと、私の育ての親の墓。

さら 育ての親って、どういうこと？

映見 実の両親は離婚したの、私が三歳のとき。暴力のせいで。

さら ……どっちの？

映見 父親の。

男V、入る。目をみひらき、遠くから映見の背中へと視線を注ぐ。

俯くさら。

映見 それで、実の母親は、妹と東京へ行った。

さら 妹って、誰の？

映見 私の。

さら え、お母さん妹いるの？

映見 二つ違いの。わかれてから一回も会ってないけど。

さら ちよっと待って。じゃあお母さんは、その酒飲みと一緒に暮らしたの？

映見 しばらくはね。父はすぐに再婚して、子どもができて、私は父の実家に引っ越したの。

さら え、なんで？

映見 なんでって？

さら 追い、出された？

映見 ー、そういうわけじゃないけど、実家は近かったし、自然にそうなったのかな。

さら かなって、そんな重大なこと。

映見 もう四十年も前だから。

さら ……。

映見 実家にはおばあちゃん、千恵子さんっていうんだけど、

さら 千恵子さん。

映見 うん。千恵子さんの、旦那さんの俊二さん。父の兄夫婦と、その息子兄弟もいた。だから賑や

かだったよ。

さら なんかややこしい。

映見 そうだね。

さら お母さんは、実の両親とは暮らさずに、父方のおじいちゃんおばあちゃんに、育てられた？

映見 そうそう。

さら 複雑。

映見 徳ちゃんには会ったでしょ？

さら 徳ちゃん？

映見 一緒に暮らしてた従兄。お墓参りのときと、ほら、もう四年前か、このうちのおじいちゃんの葬儀のときにも会ったじゃない。

男V、さらへと視線を変える。

さら ……。

映見 大丈夫？

さら え？

映見 ぼーっとしてる。

さら いや、なんか最近忘れっぽくて。

映見 何か相談したいことがあったら言ってみてね。

さら ……。東京に引っ越した二人とは？ 電話とか、手紙とか。

映見 なかった。

さら 会ってみたいと思う？

映見 今さら会ってもね。

さら ……。

映見 気になる？

さら まあ、なんか、びっくりした。

映見 詳しくは言ったことなかったかもね。

さら 言う必要なかった？

映見 言えるほど、家族とは思えなかったんだろうね。もう、別の家の人。

さら どうして東京にいるって知ってるの？

映見 むかし千恵子さんが言ってた。

さら 実家には、今も行ったりしてるの？

映見 ううん。行ってない。

さら 誰が住んでるの？

映見 今は徳ちゃん。

さら ……。

映見 別に隠してたわけじゃないんだよ？

さら それは分かるけど。

映見 ……ごめんね。

さら 別に、謝らなくても…。

映見 知り合いの紹介でこの家に嫁いで、……このうちのお父さんとお母さんは厳しかった。怒鳴られたし、叩かれもした、イヤミっぽくて意地悪もたくさんされた。あなたと杏奈と連れて家を出たこともあった。でも二人がいてくれたから、がんばれた。

さら ……。

男V、去っていく。

映見 (微笑み、) 今が大事。あなたたちが家族。

さら ……。

映見 朝ごはん、食べた？

さら (首を横に振る)

映見 食べる？

さら いらない。

映見 そう。

映見、伸びをする。

映見 ためになった？

さら うん。

映見 (あくびしながら) じゃあよかった。

さら 寝て。

映見 うん。おやすみ。

映見、去る。さら、その背中を見て、

映見 おやすみ。

さらに光が集まる。

さら 胸が苦しくなった。喉に何かが詰まったような、お腹に石が溜まったような(お腹に手をあてる) ……この感覚……。私は母を裏切っている。でも、苦しめたくない。

5 相談

昼休み。さらがお弁当をつついている。
そこへめい。

めい もーほんとにお腹ペコリヌ。

さら ねえなんかあったの？
めい なんて？
さら スカートめっちゃ短いよ。
めい そう？
さら そうだよ。
めい 気分いいじゃんこのほうが。うちの制服ダサいしさ。
さら 喋り方もなんか変。
めい ってかき、さらってなんでいつもスボンなの？ スカートも持ってるって言ってなかった？
さら このほうが楽だし、落ち着くから。
めい 冬寒いしねー。

間。

さら 話変わるけど、
めい ん？
さら うちのき、母方のおじいちゃんとおばあちゃんに、一回も会ったことないんだよね、私。
めい どうして？
さら なんか複雑なんだよね。おじいちゃんはもう亡くなって、おばあちゃんは東京にいるらしいんだけど、なんか小さいときに離婚したらしくて、音信不通？ みたいな。
めい 東京。
さら おばあちゃんの実家が東京なのかな。
めい だったらしいね。
さら ん？
めい 東京に親戚いたら良くない？ 遊びに行きやすいじゃん。
さら あー、そう考えるとまあ。
めい 会いに行けば？
さら いや、場所わかんないんだよ。
めい 知ってる人いないの？
さら いないことないと思うけど。「突然なに？」って感じじゃない？
めい そう？ 気になるなら仕方ないじゃん。
さら 気になるっていうか、どうして離れてから一回も会わなかったんだらうって。電話くらいできるだろうに。
めい 事情があったにしても、それを知りたいよね。
さら うん……、会えるかな。
めい (立ち上がり) 協力する！
さら えっ、

音楽。

めい、さらを立たせる。ノリノリでさらの背中を押して進むめい。舞台をぐるりと回る。

さら
めいに背中をズンズン押しされ、私たちは母の実家を探し始めましたあーわわわっ！（つまずきそうになる）。

めい、一人で走り去る。照明、さらに集まる。

さら
手がかりは母の従兄の徳ちゃんだけ。お姉ちゃんは母の育った家を知りませんでした。夜、私は母の携帯を盗み見て、徳ちゃんの電話番号をゲットしました。

光の中にめいが入ってきて、

めい 電話できた？

さら うん、めっちゃ緊張したー。

めい がんばったね。

さら 会って話すことになった。

めい え、なんて話したの？

さら 学校で家系図を書く課題が出たって。

めい あー、直接おばあちゃんの居場所を聞いたわけじゃないんだ。

さら 聞きづらくって……。

めい でも一歩前進だね。

さら 今度の日曜十四時、喫茶店で。

照明CO。

6 喫茶店

カランコロン（SE）。溶明。

めい パフェ頼むからね。

さら はい。

めい でっかいやつ！

さら なんでもいいです。

さらとめい、椅子に座る。

めい 徳ちゃんさんの顔わかる？

さら 憶えてない。
めい 会ったことあるんだよね？
さら 四年前。
めい 四年か！

徳ちゃん入る。カランコロン。

徳 あ、待ち合わせです。

辺りを見回し、2人を見つけてやってくる。客も入り、あいている席につく（SEなし）。

徳 お待たせ。

さら あ、こ、こんにちは。

徳 久しぶりだね。遠目じゃちょっと分かんなかったよ。

さら ……。

めい 友だちの水島です、初めまして！。

徳 こんにちは。

めい 徳ちゃんさんですよ？

徳 あはは、映見ちゃん、家でもそう呼んでるんだな。

さら あ、はい、あの、はい。

めい さら、今日ちよっと具合悪いみたいで。

徳 大丈夫？

さら あ、全然、気にしないでください、あの、今日は母のこと、いろいろ教えてください。

徳ちゃん、アルバムを出す。

徳 映見ちゃんとはよく遊んだよ、うちの兄弟あわせて四人で（集合写真を見せる）。

さら これ、お母さんですか？

徳 うん。十歳くらいかな。

めい あ、似てる！。

さら 私？

めい 鼻とか目元。

さら （鼻をかくす）

徳 これは鬼ごっこかな、庭で。

さら お母さん、

めい めっちゃ速そう、

さら 残像が、

徳 よく外で遊んだよ。川に入ったり公園で缶蹴り、ひとんちの石垣のぼったり、上級生の男子

さら 交ぎって野球やったり。映見ちゃんは運動が得意だったな。意外です。

徳 でも口数は少なかったかな。だから喧嘩もしたことなかったよ。家族のことで傷ついたぶん、みんなに優しくかったのかもな。

さら 母は寂しがってましたか？

徳 ときどき、みんなが寝たころ、庭に出て泣いてたよ。今でも憶えてる。月の明かりに照らされて、じつと、立ったまま、どこか遠くを見つめてた。何を考えていたのか。映見ちゃんは誰のことも責めてなかった。俺たち兄弟はラッキーだったよ、彼女と暮らせて。

さら どうしてですか？

徳 いろいろ教わった。逞しく生きる姿にね。励まされたよ。

めい (微笑み、さらに肩を寄せる)

さら 母の実母は、今どこに住んでるか分かりますか？ 東京にいるとは聞いたんですけど。

徳 誰から？

さら 母です。

徳 やっぱりそうか。

さら ？

徳 見てもらいたいものがあるんだ。

徳ちゃん、鞆から手紙の束を出してさらへ差し出す。

徳 映見ちゃんのお母さんが、うちのばあちゃんに出してた手紙。

さら 千恵子さんにですか？

徳 うんうん。遺品整理のときに見つけたんだ。東京に引っ越したあとも、しばらくは届いてたみたいだよ。

客、去っていく。

さら、紐を解いて手紙を見る。はがきもあれば封筒もある。

徳 大半は国内からだけど、一通だけ、アイスランドから来てる。

さら・めい アイスランド？

徳ちゃん、特定の封筒を手に取り、

中の手紙を広げて示す(写真も入っているがここでは出さない)。

徳 ここ、読んでみて。

さら ……「故郷」？

めい え？

さら 娘の結婚を機に、故郷へ帰ることになりました。日本で暮らしたこと、すべてのごことに感謝

します。お世話になりました。ビルタより”

間。

さら ビルタ？

徳 映見ちゃんそんなにヨーロッパかなあ？

さら ないです、全然ないです。

めい どういうこと？ さらのおばあちゃんはアイスランドの人？

さら (徳ちゃんを見る)

徳 いや、わからない。

さら この、ビルタさんには会ったことないんですか？

徳 あるとは思うんだけど……、でも外国の人なら憶えてそうだよな。

さら よそから移り住んだのかもしれないし、

めい ってか、さらのお母さんも、自分の母親がどこの人か知らないの？

さら (徳ちゃんを見る)

徳 知ってたら、さらちゃんに言うだろうし、

さら それはわかんないです。知ってて言わないだけかも。

めい そんなことある？

さら だって妹がいることも言わなかったんだよ？

徳 まあ、昔のことだし。今さら、

めい いや、超重要じゃないですか？ 自分の中に、血が流れてるんですよ。自分の命にDNAって、

超重要事項じゃないですか？ 知る権利、あると思いませんか？

徳 ま、まあ、確かに。

さら この手紙、いただくことはできませんか？

徳 全部もって行ってほしい。見つけたとき、ほんとは映見ちゃんに渡そうと思ったんだけど、

どれも千恵子さんに宛てたものだったし、千恵子さんが映見ちゃんに渡さなかったものを、

俺が渡すのは違うだろうと思って。

さら でも、いいんですか？

徳 もし映見ちゃんのほうから訊いてきたら、渡そうとは思ってた。まさかさらちゃんが訊いて

くるとは思わなかったけど、さらちゃんが知りたい家族の歴史を、俺が隠すのはもっと違う。

さら この中に、お母さん宛の手紙はないんですか？

徳 少なくとも、宛先に映見ちゃんの名前はなかった。

めい なんてだろうね。

さら ……この際、おばあちゃんがどこの誰かなんてどうでもいい。

さら、手紙をたたみつつ、

さら 関わりがないと、他人になっちゃうものですかね。

徳　ほんとは我慢してたのかもかもしれないよ。微妙な状況だったからね。

さら、手紙を戻そうとしたとき、封筒の中の写真に気付いて取り出す。

徳　ああ、その写真に写ってるのが、

さら　妹さんですか？

徳　うん、分かる？

さら（頷く）似てます、お母さんと。

めい（写真を覗きこむ）

徳　手紙に書いてあるけど、旦那さんがその農場の経営者なんだって。

さら（写真をめいに渡し、手紙を冒頭から黙読）

めい　ここ、アイスランドですか？

徳　そうみたいだね。

めい　素敵な笑顔。

さら　つまり、おばあちゃんは、結婚する娘と一緒に移住した。それがもう、二十年前のこと……。

めい　遠いね。

ゆっくりと転換。

さら　その日から、母と顔を合わせるたびに、

映見　入る。じっと映見の顔を見つめるさら。

映見　ん？　顔に何かついてる？　え、もしかして鼻毛？　あ、鼻毛だ。

映見　駆け去る。

さら　見つめてしまいます。頭の中で、想像が膨らんでしまう。母が家族へ抱く思いや、私たちを形作る遺伝子のこと。そして、故郷。わたしの辿るべき、ルート。

アイスランド国歌が流れる。

7 教室・放課後

携帯電話を見てぼーっとしているさらのもとに、めいがやってくる。

めい　きた？

さら　きてない。

めい 忙しいのかな。

さら 一週間前から更新されてないし。

めい あんまり使わないんじゃない？ SNS。

さら でも写真とか結構のってる。

めい どれ。

さら (画面を見せる)。

めい (見る) へえー。あ、オーロラじゃん、すごっ。

さら 個人のアカウントも探したんだけど、

めい これ農場の名前あってるの？

さら あってるよ (写真を取り出し、めいに渡す)。

めい ほんとだ。看板の名前と一緒。

さら やっぱり、もう関わりたくないのかな。

めい もうさ、行っちゃおうよ。

さら だからお金ないし、行ってもどうやって移動するの。

めい バスかタクシー。

さら お金がない。

めい バイトは？

さら 一応探したけどさあ、

めい 私もう決めたよ？

さら えっ、

めい 善は急げよ。

さら 本気で行くつもり？

めい あたりまえじゃん。

さら なんて？

めい 行きたいから。

さら 無理しないでよ。

めい してないし。

さら なんのバイトするの？

めい 稼げるやつ。

さら なに？

めい 飛行機代って高いよねー。

さら ねえなんのバイト？

めい いま予約すれば安いけどお金が足りない。お金が溜まるころには値上がりしてて、結局買えない。不条理ー。

さら めい、今日メイクしてるよね。

めい だから？

さら やっぱり最近変だよ。

めい 普通にJKやってるだけ。

さら 彼氏でもできた？

めい 何それウケる。

さら ……。

めい とにかくお金はなんとかするから、夏休みに行こう。

さら ねえ、

めい チャンスは今しかないでしょ？

さら パスポートはまた更新すればいいよ。

めい また言い訳。

さら 言い訳？

めい もらった手紙、なんでお母さんに渡さないの？

さら ……。

めい 渡して素直に言えばいいじゃん。おばあちゃんに会ってみたいって。

さら 言えないよ。

めい なんて。

さら なんてって、

めい 逃げてるだけじゃん。

さら ……。(スポンを握り締める)。

めい 自分の気持ち、大事にしてよ。

さら わかんない。

めい どうわかんない？

さら おばあちゃんに文句言いたいけど、お母さんがおばあちゃんのことどう思ってるのか、ホントのところがかんないし、私がかんないって言うことでお母さんが嫌な思いをするかもしれない。自分を捨てた人に、自分の娘がかんないって言うんだよ？ 意味わかんない？ 私も私で孫として、その人に会ってみたいって思っちゃってる。向こうは向こうで会ったこともない高校生にいろいろ言われても、「は？ お前誰」みたいな……。結局ただの自己満。みんなに嫌な思いをさせるだけ。

めい、しやがみ、さらの顔を見る。

めい うまく言えないけど、さらはなんにも我慢しなくていいんだよ？ 自分の気持ちも、お母さん

の気持ちも、ぜんぶ、全部ひっくるめて叶えてほしい。(涙をこらえる)

さら めい、

めい もう……どっか行こうよ。ぜんぶ忘れてパーツとしたい。じゃないとほんとに、ほんとに頭がおかしくなりそう。

俯くめい。

さら、めいの頬から顎を左右の手で包むようにして、顔を上げさせる。

さら もう、やめよ。考えるの。
めい ……。
さら 行こう。

音楽。

めい（笑み）うん。

携帯電話の着信音。音のほうを見やる二人。
暗。

8 農場

ヨンが照らされる。携帯電話を操作している。

ヨン 日本語？ ……（血相を変えて）かあさん、かあさーん！

明。

洗濯かごを持って入る由梨。

ヨン かあさん、これ見て。

由梨 帰ったならお父さんのほう手伝いなさい。

ヨン 大事なことだよ。

由梨 女性がアメリカの大統領になった？

ヨン もう、読むからね。＼はじめまして。＼ ……。

由梨 なに。

ヨン 読めない、漢字が。

由梨 漢字？

ヨン（携帯電話を渡す）。

由梨 〴〵はじめまして。突然すみません。〴〵

ヨン ああ、「トツゼン」ね。

由梨 誰から？

ヨン 読んで。

由梨 〴〵私は舟喜さらと申します。〴〵

ヨン やっぱりフナキ！ ばあちゃんの前名！

由梨 〴〵そちらの農場にビルタさんはいらっしやいますか？ 名前しか分からないのですが、私の祖

母にあたります。〴〵

ヨン ね！ びっくりでしょ。きっとこのサラって子は、母さんの姉さんの子ども！ 僕の、

あれだよ、日本語でなんだっけ。

由梨 ヨン、これいつ届いたの。

ヨン 一週間前。さっき気づいた。

由梨 私は今まで母方の家族について何も知りませんでした。最近あるきっかけがあり、私は
(以下黙読)

ヨン いやあ僕もね、日本に行ってみたいと思ってたんだ。ばあちゃんが愛した日本の文化、肌で触
れてみたいでござるよ。いつかは留学したり、ばあちゃんみたいに住んでみたいな。

由梨 やめときなさい(携帯電話を返す)。

ヨン えっ? え、どうするの。

由梨 本気で来たいなら来なさい。、そう返信しておけばいいわ。

ヨン いいの?

由梨 駄目な理由がある?

ヨン いや、僕はないけど。「やめときなさい」って言ったのは何?

由梨 留学先はほかにもあるでしょう?

ヨン 日本がいいんだけど。

由梨 この話はあと。むこうを手伝って。

ヨンはあ。

ヨン、携帯電話を操作しながら駆けていく。遠くを見つめる由梨。

9 ヨン

さら、入る。

さら アイスランドへの旅費を稼ぐため、わたしはアルバイトを始めました。食品の仕分けや梱包、
チラシを折ったり、週末みっちり朝から晩まで。勉強も疎かにはできません。生活は一気に慌
ただしくなりました。それでもいろいろ計算すると、夏休みの間に行くには、どうしてもあと
五万円ほど足りません。めいは、いまだになんのバイトをしているのか、教えてくれません。

メッセージの着信音。さら、携帯電話を見る。ヨンが入る。

ヨン 三「仕事は順調?」

さら ……。(入力)。

ヨン よかった。くわしい予定が決まったら教えてください。母と空港まで迎えに行きます。〃

さら (入力)。

ヨン いいんだ。僕も母さんの家族に会いたいからね。日本についても、もっと知りたいんだ。〃

さら (入力)。

ヨン 母さんとはあちゃんは日本語で話していたからね。僕も話せるけど、書けないし読むのも苦

手なんだ。父さんは「英語で話してくれ」って毎日ぼやいてたよ。”
さら（入力）

ヨン ああ。仲がいいよ。でも、ばあちゃんの Alzheimer's 認知症がひどくなって、先月 Care home に入ったんだ。”

さら アルツハイマー……。 （入力）

ヨン からだは元気だよ。でも、面会はできないかもしれない。

さら ……。

ヨン あの、もしよかったら、「exit」じゃなくて声で話せないかな？

あの男、入る。さら、あの男のほうを見て、すぐに目を逸らす。

さら、携帯電話をしまい、去る。ヨン、返信がないことに首をかしげ、去る。あの男も去る。

10 舟喜家リビング・二十三時

杏奈、入る。遅れてさら、入る。

さら（溜息）

杏奈 どしたの。

さら わっ！

杏奈 ！

さら びっくりしたー。

杏奈 こっちもびっくりしたわよ。

さら（物憂げに座る）

杏奈 忙しいの？

さら え？

杏奈 バイト始めたんでしょ？

さら うん。

杏奈 まあ、少しは元気になったみたいね。

さら どういうこと？

杏奈 何年か前から、あんたずっと暗かった。

さら ……お姉ちゃんはさ、お母さんの家族に会えるとしたら、どうする？

杏奈 どうって、別に今さら興味ないっていうか、

さら アイスランドにいるんだよ。

杏奈 なにが？

さら おばあちゃん。ビルタって名前。

杏奈 え？

さら お母さんには妹がいるんだよ、由梨っていう。

杏奈 ……。

さらら こないだ由梨さんの息子、つまり私たちのイトコから連絡がきた。
杏奈 なんて？
さらら 本気で来たいなら来なさい、って。
杏奈 アイスランドに？
さらら うん。
杏奈 それは、なに、え？（笑う）マジで？ アンタ何やってんの？（笑いが止まらない）
さらら ちよっと、怖いんだけど（姉が）。
杏奈 だって、アンタいつからそんなアクティブになったの、びっくりするわ。あー、面白い。
さらら お姉ちゃんのツボってよく分かんない。
杏奈 それで、なに、どうするの。
さらら 行くよ。
杏奈 お母さんと？
さらら 友だちと。
杏奈 それお父さん許したの？
さらら 黙っていく。
杏奈 バレたら殺されるんじゃない？
さらら 一人じゃないし、向こうに着きさえすれば、迎えに来てもらえるし、泊めてくれる。
杏奈 ホントにお母さんの家族なの？
さらら（携帯電話で撮っておいた写真の画像を見せる）。
杏奈 なに。（見る）これ、お母さんの妹？
さらら うん。
杏奈 似てるわ。
さらら 二十年後のその人に会いに行く。
杏奈 マジで？
さらら マジで。
杏奈（ふっと笑う）。
さらら 面白い？
杏奈（首を横に振る）
さらら ……？
杏奈 ビョークってわかる？
さらら ビョーク？
杏奈 アイスランド出身の歌手。
さらら 知らない。
杏奈 ……（携帯電話を返す）。
さらら 関係あるの？
杏奈 いや、その人が出てる映画を、思い出しただけ（さららに背を向ける）。
さらら だったの。
杏奈 一服してくる。

杏奈、去ろうとしたが立ち止まり、振り向かず、

杏奈 無謀。

さら え？

杏奈 でも、なんか頼もしくなった。

さら ……。

杏奈 (振り返り、さらを見て、) 安心した。

微笑んで去ろうとした杏奈に、

さら お姉ちゃん、

杏奈 ん？

さら お金貸して。

杏奈 (噴き出す) アンタね、いま私なんて言った？

さら え、「安心した」って。

杏奈 それがいきなり「金貸して」ってもう、しつちやかめっちゃかよ感情が。

さら だってチケット高くて、バイトしてもあと五万足りない。

杏奈 (溜息)

さら 一カ月以内に返すから、絶対。お土産買ってくる余裕はないけど、向こうのこと、たくさん話すから。レポート書くよ、作文用紙何枚でも書く。お姉ちゃんの知りたいこと、メールしてくれたら全部訊いてくるから。あと、

杏奈 いいわよ。

さら ……。

杏奈 その代わり、ちゃんと帰ってくるのよ。

さら (杏奈の目を見て、) はい。

杏奈 向こうにいるあいだはどこにいる設定にすんの。

さら え？

杏奈 黙っていくんでしょ？ アリバイが必要でしょうよ。

さら (あっ)

杏奈 マジかよ。

さら どうしよう。

杏奈 聞かなきゃよかった。

さら 友だちの家って言う。

杏奈 絶対バレるよ。

さら ええー。

杏奈 じゃあいいよ、私んちってことにしな。

さら (えっ)

杏奈 もう乗り掛かった舟。いや飛行機か。

さら いいの？

杏奈（短く息を吐き、）私のぶんまで行ってこい。

音楽。

さら 行ってきます。

杏奈、去る。

11 通話

あの男、入る。さら、携帯電話を操作し始める。そばに立って画面をのぞきこむあの男。ヨンが入り、すぐに着信音があつて自分の携帯電話を見る。さらから掛かってきた電話を受ける。さらは携帯電話を両手で持って話す（音声スピーカーに出しているで）。

ヨン はい！

さら 聞こえますか？

ヨン はい、聞こえます！

さら あの、そちらに行く日を決めました。

ヨン あつ、メモ、メモ取ります。待ってくださいね。

さら はい。

ヨン はい、どうぞ。

さら 八月二十四日の、十九時十五分、ケプラヴィーク国際空港に着きます。

ヨン OK. いつまでここにいますか？

さら そちらのご都合に合わせてと思います。あまり長くお世話になるのも、申し訳ないので。

ヨン 母さんは「好きにしたらいい」って言ってたよ。

さら あの、由梨さんは私のこと、どう思ってるんでしょうか。

ヨン よくわからない。でもはっきり言う人だから、いいって言うならいいんだと思う。

さら ……じゃあ、二十七日の午前中に帰ります。

ヨン えっ、もつといたらいいのに。

さら 学校も始まるので。

ヨン そっか。忙しいね。

間。

あの男は徐々にさらから離れていく。

二人 あの、

ヨン あ、ごめんなさい。
さら いえ、あの、すみません。
ヨン えっと、こっちにいるあいだ、どこか行きたい所ありますか？ よかったら案内します。
さら 間欠泉、とかですか？
ヨン そうそう、カンケツセンとか。近い所で一時間ちよつとかな。
さら 一緒に行く友だち、めいっていうんですけど、
ヨン メイ？
さら はい。
ヨン サラ&メイだね。
さら (笑み) はい。
ヨン いい名前だ。
さら めいは、ブルーラグーンに行きたいって言ってました。
ヨン ブルーラグーンは空港に近いから、通るときに寄れたらいいね。入るなら水着を持ってきてね。
さら 伝えておきます。
ヨン 僕はたくさんのお水とマグマに感謝してるんだ。生活を支えてくれているからね。
さら 温泉がですか？
ヨン 温泉も素晴らしいけど、発電さ。火力にも原子力に頼らなくて済んでいるんだ。
さら 火力発電所も、原発もないんですか？
ヨン ない。温泉だらけだよ。Sulfurのおかげで肌も綺麗だしね。
さら すごいですね。
ヨン でも日本はこっちより熱のResourceがあるって聞いたよ？
さら え、知らないです。
ヨン コストや場所の問題があるのかもね。
さら 環境とか、安全のことを考えると……、
ヨン そう。日本は痛感してるはず。自然との共存についてね。

映見 入る。

映見 さらー、ごはんよー。
さら あ、すみません、夕飯の時間です。
ヨン じゃあ予定のこと、母さんに伝えます。
さら お願いします。
ヨン おやすみです。
さら (笑み) おやすみです。

ヨン、去る。

さら まだ見ぬイトコ、ヨンは私と同年。ときどき現地のことを教えてくれたり、日本について訊いてきます。歴史やアニメ、政治、社会について。私とはまるで違う。彼と話していくうちに、私の視界がひらけていきます。

あの男、客席に背を向けて床にあぐらをかき、目を瞑る。

さら 日が伸びて、蝉が鳴き、あつという間に七月下旬。無事に航空券を買うことができました。あとはお姉ちゃんに返すお金を稼いで、旅行の準備を始めます。めいと、一緒に。

ヨン、入る。

ヨン 日本の軍事力は世界第五位だって。

さら 自衛隊って強いんだ？

ヨン そうなのかねえ。

さら そっちは？

ヨン 警察とか、沿岸警備隊はもちろんあるけど、アイスランドには軍隊がありません。

さら え、なくても大丈夫なの？

ヨン NATOに入ってる国の、空軍が、交代で警備してるんだ。

さら 知らなかった。

ヨン 核兵器にも断固「反対」。

さら 日本は自衛隊を遠くに派遣して、危険があるのに拡大解釈で正当化してる。

ヨン 他国との結びつきが強いよね。

さら 国民よりも大事にしてる。利益優先、嘘ばかり。その場しのぎのやつつけアピール。

ヨン どうしたの。すごく熱いね。

さら 最近イライラする。

ヨン 疲れてるんじゃない？

さら (首を横に振る) テレビとかネット、できるだけ避けてたんだけど、お母さんのこと知ってるから、いろいろ調べるようになった。そしたらなんか、見たくないものまで見ちゃうから、爆発しそうになる。頭が。

ヨン なんて見ないようにしてたの？

あの男、立ち上がる。遠くからさらをじっと見つめ、動かない。

さら ……。

ヨン 美味しいもの食べて、映画でも観てたくさん寝よう。

さら (短く息を吐く)

ヨン ……。

さら アイスランドには苗字がないんだよね？

ヨン ミヨウジ？

さら 私だったら舟喜さら。フナキっていうのが苗字。

ヨン ああ、うん。父親の名前に、息子もしくは娘っていう意味の言葉がつくんだ。例えばヨハン (Johann) の息子 (son) ならヨハンソン (Johann s son) になるね。

さら 母親の名前を使ってもいいんでしょう？

ヨン そうだね。結婚しても変わらないし、家族でラストネームが違うことは不思議じゃない。

さら 同性婚も認められてるんだよね？

ヨン うん。十年くらい前に。

さら マイノリティーの人たちにも優しいんでしょう？

ヨン 当然の権利としてね。偏見はないし、オープンだよ。法的にもほぼ平等だしね。

さら すごいよ。ほんと、同じ島国なのにぜんぜん違う。

ヨン 泣いてる？

さら 泣いてない。

ヨン ……実は母さんが、フェミニズム運動とか、LGBTQIAの支援に熱心で、団体での活動に参加してるんだ。だからもし、何か相談したいことがあったら、今度話してみたらどうかな。

さら ……大丈夫。

ヨン ……そう。

音楽。

さら もう遅いから寝ます。

ヨン ……。

さら おやすみです。

ヨン おやすみです。

さら、去る。(着替え)

ヨン、トロールの存在に気付き、視線を向ける。二人、目を合わせ、動かない。突然、硬く不気味なニヤけた顔になるトロール。険しい表情のヨン。トロール、去っていく。

ヨン 遠く、離れた日本の家族に会える。八月、大陸を越え、彼女たちがやってくる。

ヨン、去る。

12 空港

リュックを背負い、キャリーケースを引いたさらとめいがやってくる。
長袖・ゆつたりめのパンツルック。

さら 七時半に出発して、羽田で乗り換え。

めい からの、フランクフルトで乗り換えて到着。

さら 移動時間は、

めい 二十一時間ちよっと。

さら 時差はマイナス九時間。

めい 氷と火の国。どんな空気かな。

さら どんなだろうね。

めいの携帯電話に着信。

めい ……。

さら 誰？

めい 親。

めい、電話に出る。

めい ……別に、お父さんに関係ないでしょ。…えっ？ は？ は？ キャンセルってなに？

は？ マジで言ってるの？ いや、え、は？ キャンセルって意味わかんないんだけど。どう
いうこと？ え、なに勝手やってんの？ ねえ。ねえ！ お前に関係ないだろうが！ 私が自
分の金で何しようが勝手だろうが！…は？ いや意味わかんないから。ねえ、ねえ！ ……
ふざけんなよ！

電話を切るめい。怒りに満ちている。

さら どしたの……。

めい ……キャンセルしたって。

さら 飛行機？

めい (頷く) なんでバレたんذار……。

さら ……とりあえず、私もキャンセルしてくる。

めい さらは行くんだよ。

さら え。無理だよ。

めい 無理じゃない。

さら またいつか……、

めい いつか？

さら いつか、

めい いつか、

さら いつかって、いつذار。……ずっとこんな感じにいるのかな……？

めい さらはどこへ行きたいの？
さら ……。

めい ずっとここにいたい？

さら いたくない。

めい じゃあ行って。飛んで行ってよ。行きたいところへ行ったらいいよ。

さら めいは……？

めい 帰りを待ってる。

さら、深く俯いたあと、勢いよく顔をあげ、

さら パーツとしてくる。めいのぶんまで、パーツとしてくる。

不安を隠すように笑む二人。

飛行機のエンジン音が聞こえてくる。

めい 気を付けて。

さら うん。

めい 早く行って。

さら なんで？

めい 親くるから、今。

さら ……。

めい 大丈夫。

さら いつてくる。

めい いつてらっしゃい。

さら、去る。めい、見送り、去る。

溶暗。

アナウンス ご案内申し上げます。当機はまもなく離陸体勢に入ります。ベルトを締め、今しばらく席にてお待ちください。

エンジン音が高鳴り、離陸。

13 到着

さらが照らし出される。

さら 地元をたち、羽田で乗り換え、不安だったフライトでの乗り換えも、なんとかうまくい

きました。そこから飛行機は、アイスランド、ケプラヴィーク国際空港へと向かいます。

さら、去る。飛行機、着陸時の音が響く。

溶明。

舞台にはヨンがいる。手には「さら and めい」と書かれたスケッチブック。到着出口のほうを見やり、そわそわとしている。

さら、入る（上着を羽織っている）。辺りを見る。

さら（ヨンを見る）。

ヨン（さらを見る）

さら（会釈）

ヨン（嬉々として）ようこそー！

スケッチブックを脇に挟み、盛大な拍手をして迎えるヨン。

ヨン お疲れ様です！ ヨンです。

さら はじめまして、さらです。

ヨン 母さんは車で待ってます（キャリアバッグをかわりに持つ）。

さら あ、ありがとうございます。

ヨン そんな他人事じゃなくていいよー？ イトコなんだから。

さら 他人、行儀？

ヨン ギョウギ？

さら 他人行儀。

ヨン タニンギョウギ、他人行儀だなー！（笑う）

さら すみません。

ヨン お友だちは残念だったね。

さら はい……。

ヨン 今度は一緒に来れたらいいね。

二人、歩きはじめる。ぐるりと歩く。

さら 外、ほんとに明るいですね。

ヨン これでも暗くなったほうだよ。冬に向けてどんっどん明るい時間がなくなっていくんだ。

さら 極端ですね。

ヨン キョクタン？

さら 極端。

ヨン そう、キョクタンなんだ。

さら わかっています？

ヨン わかるよ？ キョクタンだろ？
さら (微笑む)。

由梨、入る。

14 由梨

ヨン お待たせ。

さら はじめまして。舟喜さらです。今回はお世話になります。よろしく願います (礼)。

由梨 (ヨンに) キャリーバッグ後ろに。

ヨンはーい。(ヨン、トランクにキャリーバッグをつむ)。

由梨、運転席 (右ハンドル) に乗り込む。

ヨン どうぞ (助手席のドアを開ける)。

さら ありがとうございます。

さら、乗りこむ。ヨンは後部座席に乗りこむ。由梨、車を出す。

自動車の走行音だけが響く。気まずい間。

ヨン 音楽ね、音楽。何がいいかな。

ヨン、携帯電話を操作し、Bluetoothで音楽をかける。

ノリノリのヨン。しばらくして、由梨、タッチパネルで音楽を切る。

由梨 母とは面会できない。

さら・ヨン (由梨を見る)

由梨 昨日も暴れたらしいから。やめておきなさい。

ヨン いや、ちょっと待ってよ、一目見るだけでも、

由梨 動物園じゃないのよ。

ヨン そんなこと言っていないだろ？

由梨 私だったら見られたくないね。さっき言われたことさえ憶えてなくて、頭にあるのは不安と混乱。焦燥感でじっとしてもいられない、パニックになる。仮にも自分の孫に、初対面でそんな醜態さらしたい？ そんなわけないよね。

ヨン ……。

さら わかりました。

ヨン いいの？

さら お二人に会えただけでも、私にとっては、大きなことです。…だから、由梨さんのことを、

お聞きしたいです。

由梨 どうなこと？

さら ……私の母と、離れ離れになってから、今まで、どう思ってた過ごされてきたのか、知りたいです。

間。

由梨 姉の存在は母から聞いてた。写真もあつた。でも記憶にはないし、会う理由もない。普通の

一人っ子として育つた。大学でこっちに留学したとき、今の夫に出会った。卒業してすぐに
移り住んで、結婚した。母は喜んだ。向こうは、日本は息苦しかったから。

さら 今まで一回も、会いたいと思つたことはないんですか？

由梨 ない。これからも、会うことはない。

さら たつた一人のきょうだいなのに、ですか？

由梨 血縁だけじゃ、なんの意味も成さない。大切なのは実質があること。

さら ……。

ヨン (小声で) 頑固なんだ。

由梨 あなたのお母さんは？ なんて言つてた？

さら 「今さら会つてもね」って。

由梨 同感よ。

沈黙の間。

ヨン、再び音楽をかける。さら、俯き、やがて目を瞑る。

ヨン ついたよ。

停車。降りる三人。ぐるりと歩く。

家に入るまでのあいだに、羊の声が聞こえてきた。立ち止まるさら。

ヨン 羊だよ。見に行くかい？

さら (頷く) はい。

由梨 ヨン。

ヨン ん？

由梨 (手を差し出し、キャリーバッグとスケッチブックを預かる)。

ヨン 行こう。

ぐるりと歩いて羊の舎に向かい、(客席を)眺める。

その様子を遠くから見ている由梨。羊の声。

ヨン 仔羊もいるよ。
由梨 かわいい。

微笑むさら。去る由梨。

さらとヨン、ゆつくりと話しながら歩いていく。溶暗。

15 夕食

暗い中、ノックの音。

ヨン サラさん？ できましたよ。

溶明。ダイニングルーム。

椅子を引くヨン。一礼して座るさら。

さら あの、お父さんは。

ヨン 出掛ける。植林で忙しいんだ。

さら 植林？

ヨン 両親そろって活動家。大変だよ。

由梨 ヨン、運んで。

ヨン はい。

由梨 あなたのお母さんは？ 何をしている人？

さら 看護師です。

ヨン へえ、素晴らしい。うちの母さんは教授を目指してたんだよ。

由梨 教育社会学者よ。教授になりたかったわけじゃない。

ヨン でも地位も必要だって言ってるじゃん。

由梨 重要なのは信頼よ。保証となるものが要するという話。公の場で政治や社会に改革を訴える力のひとつになるわ。

さら 改革、

由梨 不遇な扱いや搾取を看過する政治、社会そのものに根付いた「人権意識」の欠如についてよ。

ヨン 飲みすぎなんじゃない？

由梨 まだワイン一本よ（あくび）。

ヨン あくびしてるじゃん。

ヨン、さらの前に料理を運ぶ。表情が曇るさら。

あの男、入る。

ヨン どうかした？

さら これ……、なんの肉ですか？

ヨン 羊だよ。子どもの。赤ワインで煮込んであるんだ。柔らかくておいしいよ。

仔羊のワイン煮込みを前に、目を見開くさら。

ヨンとあの男、ニヤリと笑い、ヨダレを手の甲で拭う。

突然、さら、吐き気をもよおす。

ヨン えっ、

口に手をあて、駆け出すさら、去る。あの男も去る。

あとを追おうとするヨン、

由梨 待って（さらが去っていったほうを見つめる）。

ヨン（立ち止まるが、由梨が何も言葉を継がないため、構わず外へと駆け出る。去る）

由梨、反対側へ去る。

16 屋外

家屋の裏手。薄明り。

駆け込んできて、嘔吐するさら。しかし胃にあまり食物が入っていないため吐瀉物は少量。うずくまるさら。背後からヨン。

ヨン 大丈夫？

さら、駆け寄ったヨンにびくりと反応し、ヨンの手がさらの背中に触れたとき、小さく悲鳴をあげる。身を縮こませ、ヨンを避ける。

あの男がやってくる。目は見開かれ、鼻はふくらみ、細かく息を切らしている。異様な表情で、ゆっくりとさらへと向かっていく。

ヨン ごめん、聞けばよかった。肉は食べないようにしてるのかい？

さら ……。

ヨン 片付けるよ。ほかにパンもあるし、クラムチャウダーを飲んでみてよ。絶品だから。その、野菜も、農薬を使ってないし、健康に、いい……（俯く）。

ヨン、ゆっくりとあとをざりしていく。

あの男、さらのかたわらにしゃがむと、無理矢理さらの口元を片手で掴み、上を向かせる。目をぎゅっと瞑るさら。

ヨン、踵を返して去っていく。
あの男、さらを凝視し、ニヤリと笑う。

男
サラ、チャン。

不気味な声が聞こえた瞬間、照明、さらとあの男に注がれる。
あの男はそのままさらを仰向けに倒す。逃れるために抵抗し、声をあげようとするさら。
体を押さえつけるため、さらの上にまたがるあの男。真上から、

男
サラチャン。サラチャン！

あの男、笑い始める。

さらの口を塞いでいた手を離し、他方の袖口をまくる。そのあとまたすぐに口を塞ぎ、腕まくりをしたほうの腕を天高くまっすぐに挙げる。

そして大きく口を開け、縮こまったさらの喉元に勢いよく喰らいつく。すぐに暗。

17
告白

溶明。舞台には放心した状態で腰を抜かしているさら。あの男は遠くからさらを見ている。
あの男の反対側から由梨が入る。こちらも、さらからある程度の距離。

由梨
もう一時間よ。ラムもチャウダーも、あたため直さないよ。

さら
……なんなんですか。

由梨
ん？

さら
ちよっとくらい、心配にならなかったんですか？ どうしてるかなあって、気にならなかったんですか？

由梨
ならなかった。

さら
あなたたちの父親は！ 酒飲んで暴力ふるってたんでしょ？ そんな男に女の子ひとり残して、よくも逃げれたもんですね！

由梨
……。

さら
お母さんが、あなたのお姉ちゃんがこれまでどんなふう生きてきたのか、今どんなふう生きていますのか、私なんかよりずっと、ずっとアンタたちのほうが気にして当然なんじゃない？！ 罪悪感とかないの？

由梨
……私は母と暮らした。母は見えない所で泣いていた。女手一つで私を育てた。アイスランドからひとり日本へ、東京へと移住した母。でも行ったのは間違いだっただ。行くべきじゃなかった。だから私は母を、この地へと連れ帰った。「故郷」。自然も人も雄大で、美しい。私は、母ひとりを愛することで精一杯だった。今は二十四時間手厚い介護を受けられる。そう遠くもない。いつでも会える。(息を吐く)ごめんなさい。

さら ……ずるい。……アンタばかりずるい……！

仔羊の鳴き声。顔をゆがめるさら。

由梨、さらの目をまっすぐに、鋭く、且つ、慈悲のある目で見つめる。

由梨 どうして来たの？

さら ……？

由梨 わたしに怒ってる？

さら 当たりまえじゃないですか。

由梨 ほんとうに？

さら は？

由梨 相手は、ほんとうに、わたし？

さら ……。

由梨 私の母でもない。あなたはほかの何かに怒ってる。

さら ほかのって……、

由梨 自分の気持ちをつかまえて。隠さずに、目を背けずに。

由梨、さらの正面に膝をつく。

由梨 あなたは一人じゃないのよ。

照明・薄暗くなっていく。

さら（首を横に小さく振る）もう……、なんなの？ むかつく……！ もう、やだ、もう嫌……！

あの男、スマホのライトを点灯させ、さらへと向ける（動画撮影）。

さら いつも、消えてくれない。ずっと、すぐ近くに、どこにでもいる。みんなアイツに見える。

由梨 アイツ？

さら わたしを、ぐちゃぐちゃにした。

由梨 男？

さら、頷く。

さら だって、どうしたらよかったの……？

由梨 聴かせて。はじめから。

さら イヤ……、

由梨 好きにさせたら駄目。あなたの人生を、そいつの好きにさせるな。

あの男、さらの手を取り、強引に引いて歩く。引きずられていくさら。少し離れた所で、手を離すあの男。さらに背を向けた状態で止まる。

さら ……神社。神社に連れていかれた。建物の、裏側。薄暗い、湿ったところ。夕方、もう帰ろうと思ったのに、無理矢理、やだって言ったのに、

あの男、振り返り、さらを見下ろす。

さら、逃げようとするが恐怖で体がうまく動かず地を這う。

仔羊の声。地べたに丸くなるさら。

男 さらちゃん。

さら アイツは、

男 さらちゃん。

さら スカートをまくりあげた。

男 さらちゃん。

さら 脱がされて、

男 さらちゃん。

さら 触られた。

男 さらちゃん。

男、さらを無理矢理あお向けにして、またがる。

さら やだ、やだやだやだやだ、

あの男、さらの口元を片手で押える。声にならない悲痛な叫びが、鈍く響く。

暗。さらの胸の上に置かれたスマホの光だけが、かすかに漏れている。口元を掴んでいた手が、ゆっくりと離れる。

静寂。

さら バツン——音がした。わたしが、裂けた音。

あの男、スマホを手に取り、裏表反転させる。あの男のニヤけた顔が闇に浮かぶ。

徐々に、さらから離れていく。(スマホの光、消灯)

溶明。あの男は去らず、スマホの画面をじっと無表情で見ている。

由梨 最低な男。

さら ……。

由梨 いつのこと？

さら 四年前。中一のとき。

由梨 相手は？

さら 高校生……、近所の知り合い、お姉ちゃんと同じ年……、私が、誤解させた、
由梨 違う。

さら ただ話すだけだと思ってた……、もつとちゃんと言えば、

由梨 言っても聞かない。そいつはあなたを軽んじた。あなたの声を聴く気がなかった。子どもの
ころろにつけこんだ、その鬼畜が100%悪い。

さら スカートを穿いても？

由梨 なに？

さら スカートを穿いて、肌を出しても、私は悪くない？

由梨 当然よ、

さら メイクもしてた。リップとか、チークとか、友だちと遊んだ帰りだった。

由梨 化粧も服も関係ないの。ズボンも穿いても、膝元まで下げられたら歩けなくなる、逃げ
られなくなる。だからズボンの人を狙う奴だっているのよ。

さら ……。

由梨 こつちが何をしても襲う奴は襲う。襲われないために自由を制限されるなんて間違ってる。

女性に自衛を求めるのは筋違いなの。襲う奴が悪いに決まってる。私たちがどんな服を着て
いようと、どんなに夜遅く出歩いていようと、相手の家でお酒を飲んだとしても、襲われて
仕方がない理由にはならない。

さら でも、

男 そんなの理想論だろ。

さら 無理だよ、

男 あー彼女ほしー、童貞卒業してえー。

さら 通じない、

男 こいつなんかエロくね？ イケるんじゃない？

さら もう遅い、

男 あー、マジ使えるわコイツ。

さら 笑ってた。携帯で、動画撮ってた……。アイツがどっか行くまで、二年近く……いつも、
呼び出されて、何回も、何回も……、

由梨、震えるさらを抱き締める。

由梨 いいのよ、

さら ……こわい……、(由梨にすがりつくように、)さみしかった……！

涙があふれる。

さら こんな誰にも言えない……！

しつかりと受け止める由梨。あの男、二人のかたわらに立ち、見下ろす。
さら、怒りを吐き出す。

さら 女に産まれただけで命がけ。こんな不公平。

男 「子どもを産め」

さら 子宮から墓場まで。女に面倒みさせ続ける。そのくせ女を邪魔者みたいに、要らないときだけ無視してる、支配する。娘をレイプ、教え子をレイプ、通りすがりにレイプ、酒を飲まされ薬を飲まされ集団レイプ。それでも不起訴、再犯を繰り返す。示談、不起訴不起訴、有力者のツテでもみ消そうとする。抵抗する余地があったって？ 証明しろって？ お前が悪いんじゃないかって？ 被害者に厳しくて加害者に優しい。SNSでもセカンドレイプ。ほんとに幼稚で心がなすすぎ。どれだけ軽く見てるんだっつもの。男性優位の社会の中で、女の意見をどれだけ聴いてる？ 男だらけの政治の陰で、いつでも女が血を流してる。テロ対策でサニタリーボックスは撤去される、医学部入試で得点を操作される、大事な試験日を狙って痴漢される、トイレを盗撮される、ネットに晒されて販売・拡散、リベンジポルノに怯えて過ごす、レイプ動画に脅され続ける……地獄だよ、死んだほうがマシ。

由梨、あの男を睨みつけている。あの男も視線を合わせ、そのまま、二人から離れて去る。
少し落ち着いたころ、さらから体を離す由梨。

由梨 肉を食べないのは、あなたの自由よ。だけど家畜と自分を重ねるのはやめなさい。

さら ……。

由梨 あなたは無力じゃない。あなたは人生を、自分の力で歩いていける。あなたの心と体はあなたのもの。自分の命を取り戻すのよ。

さら ……どうやって、

由梨 しばらくここで暮らさない。

さら え？

由梨 ちょうど人手がほしかった。

さら どういうことですか？

由梨 ここで仕事をしながら、勉強するのよ。

さら 勉強？

由梨 日本の高校生が習えないこと。アイスランドには実績がある。見習うべき歴史がある。この地で、先進的な文化を肌で感じてほしい。そして女性学や社会学の門戸を叩く機会にしてほしい。私は必ずあなたの役に立つ。

さら なんて、急に、

由梨（小さく息を吐く）……母は再婚したくないって、その理由は教えてくれなかったけど、きっと私のためでもあったんだと思う。母の姿にたくさんのことを教わった。愛してくれた。あな

たには大人として、女性として、一応あなたの叔母として、できることはしたいと思う。今さらだけど。

さら ……でも、さすがに、相談しないと。

由梨 私からも話すわ。

さら え？

由梨 別に嫌ってるわけじゃないから。

さら 旦那さんには、相談とか、

由梨（笑み）あの人こそ大丈夫。自由な人よ。生まれも育ちもここだから、勉強の助けになつてくれるわ。

さら っていうか、学校あるんですけど。

由梨 夏休みはいつまで？

さら 三十日です、八月。

由梨 ……「Kvenafriðagurinn」。英語で「Women's Day Off」。二カ月後の十月二十四日。ジェンダー平等を訴えるためにストライキを起こす日よ。

さら ウーマンズ・デイ・オフ。

由梨 男女の所得格差から、適切な労働時間を割り出して、そのぶんだけ勤務するの。仕事中に職場から一斉に女性がいなくなったら、どうなると思う？

さら 困る。

由梨 そう。女性も立派に国を支えていることに、多くの人々が気付いた。一回目の1975年、女性たちの声は国民を、政治をも動かすことになった。五年後には世界初の女性大統領が生まれた。今では議員や管理職の四割は女性。育児に関する制度も多くて、育児は夫婦合わせで九カ月。男性の取得率は八割。子どもを連れての出勤も、職場の理解が得られてる。ストリップや売春は違法。DV加害者への法的措置も制定されてる。警察は必ず動いてくれる。それでも格差はなくなるならない。収入のことだけじゃない。社会の根底にある女性蔑視への抗議のために行動するの。私たちはハラスメントや暴力には屈しない、決して黙らない。

（さらの手を握り、）この手で、そのからだで、その声で社会に、世界に示してみせるのよ。

さら なにを……？

由梨 私たちという者を。

目に涙をたたえるさら。

由梨 社会の認識を変えるの。支配していい「モノ」じゃない。自由な「人間」だと。

さら（頷く）

由梨 あなたは一人じゃない。私たちは諦めない。さら。その力を、どうか貸して欲しい。

さら（何度も頷き、）はっ。

辺りが緑に色づく。

ふと空を見上げると、オーロラが揺らめいていた。

由梨 運がいいわね。
さら ……すごい。

さら、涙をぬぐう。

18 主張

ヨンが入り、光が集まっていく。さらと由梨は去っていく。

ヨン 窓越しに聴こえてた。サラさんの声が、僕の時間を止めた。湧き上がるこの熱は、恥、恐れ、嫌悪、怒り。女性というだけで痛みを強いられそのうえひとからモノのように扱われる、扱っていいと誤認させる社会に世界に今なお僕らは生きている。ふと目にする広告・商品として、女性が搾取・消費されてる。家で、神社で、公民館で、駐輪場で、駅のホームで、いたるところで僕らの友がレイプされてる。家族に、知人に、見知らぬ誰かに。そんな地獄に疑問も持たずに誰かの叫びも、口を塞いで無きものにする。それは誰が、誰が変わる。誰が変わらなければならぬか！ それは僕だ。声をあげるべきは僕、そしてキミだ。『男性』というだけで得てきた特権を自覚するんだ、そして不要だと言って突き放せ。相手が『女性』というだけで侮辱的な行いを正当化する人から、目を逸らさずに糾弾するんだ。男だろうが女だろうが僕らはみんなおんなじ人間。みんなオギャアと母から生まれ、ただ安心して毎日を過ごしていききたい、その権利が、すべての人にあるべきなんだ、なのに無い。故意にもしくは無意識に、誰かに心を削らせている。その痛みにせめて気付こう、声を聴こう、真に共感できずとも敬意を払おう。その血は、その骨は、その肉は、その精神は、すべてみな同等であり且つ『個人』を讀める象徴なんだ。ルックスや『性的』かどうかでひとを見るのはやめよう、決して誰かのトロフィーにはなり得ないんだ。今すぐやめよう、意識を変えよう、心を知ろう、からだを知ろう、人としての権利について考えよう。今、その胸に湧いた力を、今すぐ、思考に、反映、させて、反復、反芻、反抗、社会に、世界に、差別に、奴らにNO！

あの男、入る。ヨン、あの男へ顔を向ける。
体もむけ、胸を張り、毅然とした態度で視線を放つ。

あの男はヨンに、ずんずんと近づいていき、彼の胸倉をグイと掴む。
睨み合う二人。

あの男はヨンの腹を一発殴り、うずくまるヨンに蹴りを入れる。
仰向けに倒れたヨンを見て鼻で笑うあの男。
去ろうとして背を向けたあの男の脚を掴むヨン。

ヨン お前じゃない……、お前は相応しくない！

あの男はヨンを振り払い、頭を踏みつける。

男
キモッ。

ヨンに唾を吐いて去る。
ヨン、しばらく動かずにいたが、震えながら立ち上がる。
あの男の去ったほうへ、雄叫びをあげながら全速力で駆け出すヨン。去る。
溶暗。

19
連絡

翌朝。携帯電話の鳴る音が響く。溶明。

さら、目をこすりながら携帯電話を取り、画面を見る。〃お母さん〃の表示。

映見、入る。

さら ……。(受話)

映見 もしもし？ さら？

さら うん。

映見 今どこにいるの？

さら ……、アイスランド。

間。

さら お母さん。私、

映見 すぐ帰ってきて。

さら え？

映見 水島さんから連絡があったよ。

さら めいから？

映見 ううん。めいちゃんのお父さんから。

さら お父さん？

映見 めいちゃん、入院してるって。

さら 入院？ なんで？

映見 数年前、お母さんが病気を患ったところから、ずっと不安定だったんだって。亡くなるころにはひどくなってお薬を飲んでたそうよ。

さら 薬…、病気がってこと？

映見 双極性障害。気分の波が、極端に激しいの。ひどく落ち込んだり、そうかと思えば異様に明るくなったり。最近はこちらと薬を飲んでなかったみたい。

さら それ、怒りっぽくもなったりもする？

映見 うん。よく喋ったり、衝動が抑えられなくなる。

さら …… (頭を抱える)。

映見 心当たりがあるの？

さら わたしのせいだ。

映見 なにが？

さら 今、めいはどうなってるの？

映見 あなたと空港でわかれたあと、迎えにきたお父さんと喧嘩になったそうよ。暴れて、手がつけられなかったって。それで、……。

さら なに？

映見 車で家に帰る途中、走ってる途中で、後部座席のドアを開けて、外へ飛び出した。

さら ……。

映見 ちょうど橋の上で、めいちゃんは、欄干に足をかけて、飛び降りようとした。

さら 飛んでないんでしょ……？

映見 うん。でもずっと泣いてて、何をしてくれるかわからない状態だからって、それで入院になったらしい。

さら ……聞いたの？

映見 めいちゃんね、あなたが心配で、「連絡させて」って、泣き叫んでたって。それで分かったらしいの。あなたも一緒に、もうそっちに行ってるって。だからうちに電話がきた。

さら めい……、

映見 今は面会できないけど、無事は知らせられる。きっと安心するわ。

さら ……ごめん、ごめんなさい、お母さん。

映見 ううん。どうしてアイスランドに行ったか、杏奈から聞いたよ。

さら お姉ちゃんのこと怒らないで。

映見 怒らない。お母さんが悪い。さらの相談にのってあげられなかった。

さら (首を横に振る)

映見 頼りなくてごめんなさい。

さら やめてよ、お母さんなんにも悪くないじゃん。お母さん、いつも私のこと考えて、優しくしてくれているのに、わたしが言うこときかない、わがままだから……、臆病だから、

映見 そんなことない。だって、自分の知りたいたいこと、求めて、探しにいったんでしょ？ 強いよ。

さら 私、今まで、したいことほとんどはたくさんあるのに、無いことにしてた。我慢しなきゃもっと辛くなるからって、どんどん、どんどん自分がわからなくなって……。でも、ここまで来て、気持ちが悪くなった。我慢しなくていいんだって。認められるものなんだって、わかった。

映見 (何度も頷く)

さら そっちは、二十八日に着く。予定通り。

映見 そう。

さら 由梨さんに、まだ聴かなきゃいけないこと、たくさんあるから。

映見 わかった。お父さんには説明しておく。文句は言わせない。

さら ありがとう……。

映見（大きく息をはく）待つてる。
さら うん。

映見 あと、少しかわってもらえるかな、電話。妹に。
さら わかった。

さら、部屋から出る。由梨、入る。

さら おはようございます。

由梨 どうしたの？

さら 電話、かわってもらえますか。

由梨 誰？

さら お姉ちゃんです。あなたの。

由梨 ……。(受け取る)

映見と由梨、電話で話し始める。

20 帰国

さら 帰国までの三日間。私は町を見て回り、話を聴いて、多くの文化と壮大な自然に触れました。
由梨 わかりました。任せてください。

映見 ありがとうございます。娘の、力になってくださって。

穏やかな表情の姉妹。

ヨン、さらの荷物を持って入り、渡す。映見、去る。

ヨン あっという間だったね。

さら お世話になりました。

ヨン 今度は冬に来なよ。また別世界だから。

さら（頷く）でも今度は、もっと落ち着いて滞在したい。だからそうできる日までは来られない。
日本で、やるのがたくさんある。

ヨン（頷く）僕も、僕だからこそできることをやるよ。世界が良くなるように。

さら みんなの力で。

ヨン（強く頷く）(泣きそうになる)

さら 泣きそうなの？

ヨン そんなことない。

さら（微笑み、）

さら、手を差し出す。

さら 握手。

ヨン (涙をこらえて)

二人、握手。

さら 由梨さん。

由梨 気を付けて。

さら お世話になりました(深く礼)。

由梨 胸を張って生きて。

さら はい。

さら、にこりと笑って去る。(着替え)
見送る二人。

由梨 いくわよ。

ヨン 母さん。

由梨 ん？

ヨン 誇りに思うよ。

由梨 なにを？

ヨン 僕の、周りにあるものすべて。

由梨 ……世界には、いろんな分野で、新時代への改革を進める若きリーダーが大勢いる。思い浮かぶでしよう？

ヨン (頷く) みんな強い意志を持つてる。

由梨 私たちも、立ち止まってはられない。

由梨、歩きはじめる。あとを追うヨン。

二人、去る。溶暗。

21 先へ

さらが照らし出される。

制服姿。スカートを穿いている。

さら 八月二十八日。日本時間二十時五十五分。わたしは地元に戻ってきた。三日後の始業式、めいは来なかった。一週間。一カ月。そして二カ月が経った、あるお昼休みのこと。

教室。薄明かり。

さら 起立、気をつけ、礼。ありがとうございました。

昼食。さら、お弁当の包みを広げる。

さら いただきます。

箸が進まない。俯くさら。

そこへ、めいがゆつくりとやってくる。遠くから、声をかける。

めい 会えた？

さら、かすかに聴こえためいの声に、ゆつくりと顔を上げ、教室の出入り口を見る。めいと分かった瞬間、一気に駆け出す。照明、赤らんでいく。

歩き出していためいに勢いよく飛びかかるようにして抱きつくさら、泣きじゃくる。子どもをあやすようなめい。

さら 会えたよ、

めいのからだから顔を離し、見つめ合う二人。ふいに、さらのほうからキスをする。数秒ののち、さらは再びめいに顔をうずめる。

めい、さらの頭に手を添え、なでる。

目をつむる二人。

やがて、めいからゆつくりと離れるさら、前を向き、

さら 私は、恐怖で見えなくなっていた悲しみを、怒りを、解き放つ。あのころの被害を、家族に、弁護士に、警察に、打ち明けることにした。正直、私にとって辛いことしかない。家族にも、背負わせてしまった。それでも、声をあげなきゃ分らない。黙っていたなら変わらない。もう、私と同じような目にあう人がいなくなるように、被害を隠さなくてもいいように、そんな社会にするために、私は闘うことにした。政治が、教育が、人の意識が変わるまで。「今さら」なんてことはない。ひとりの人間として声をあげる。だから、生きていける。